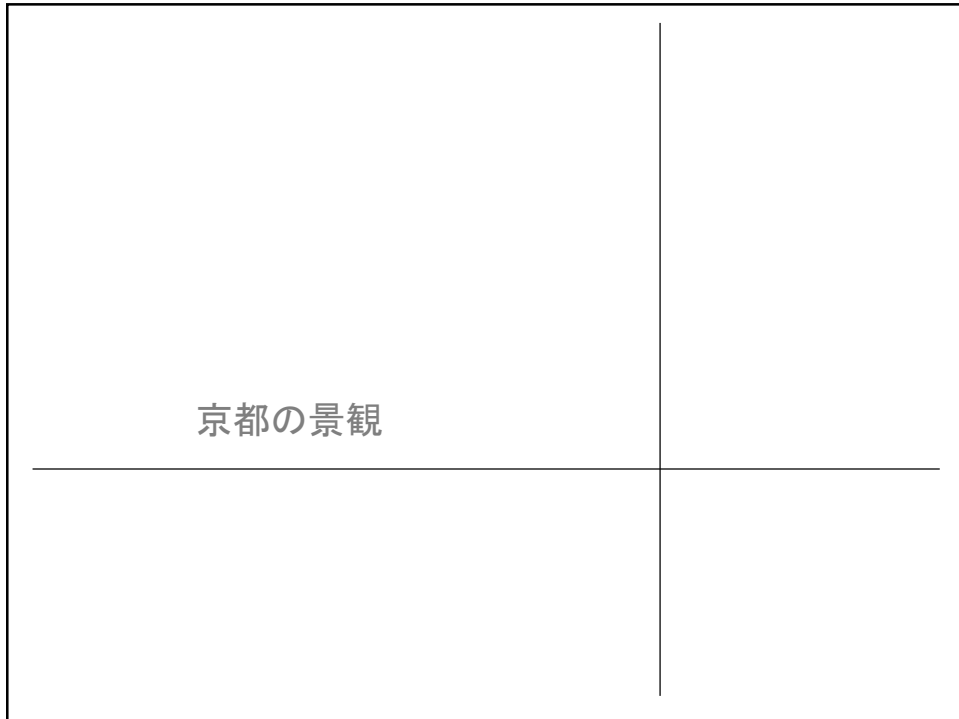


京都市の景観政策



1

京都の景観



2



3



4



5

人の営みや暮らしによる景観

「京都の景観は、本来、京都特有の自然環境の中で伝統として受け継がれてきた都の文化と町衆による生活文化とが色濃く映し出されているものであり、日々の暮らしや生業等の都市の営みを通じて、京都独特の風情が醸し出されてきたものである。」
 (「京都市景観計画」より)



6

景観政策前史

7

京都の美しい景観を守る取組

1871 (明4)年 社寺上知令 (社寺地の森林等を国が収用)



1898 (明31)年 京都市役所開庁

1900 (明33)年 初代京都市長(内貴甚三郎) 市議会で都市構想を
示す

「東方ハ風致保存ノ必要アリ。(中略)北方ハ西陣アッ
テ尚現況ヲ継続シ、名所旧跡ノ保存ハ京都トシテ決シ
テ放棄スベカラザル事業ナリ」



1919 (大8)年 都市計画法の制定(風致地区制度)

市街地建築物法の制定

高さ制限: 住居地域: 65尺(19.7m)

それ以外の用途地域 100尺(30.3m)



8

1930 (昭5)年 **風致地区の指定**(3, 400ha→現在17, 938ha)



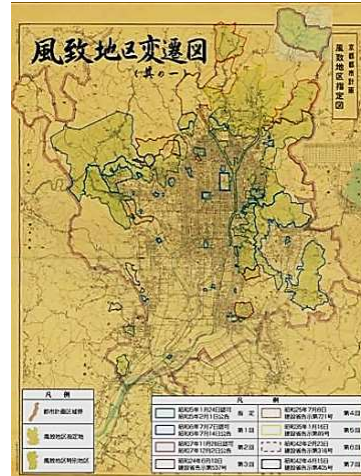
1950 (昭25)年 建築基準法施行

高さ制限: 住居地域: 20m

それ以外の用途地域: 31m



1956 (昭31)年 **屋外広告物条例の制定**



9



1964(昭39)年 双ヶ岡の開発問題

京都タワー問題



1966 (昭41)年 古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法

1967 (昭42)年 **古都保存法による歴史的風土特別保存地区の指定**

(117ha→現在2, 861ha)



10

↓
1972(昭47)年 **市街化調整区域の設定**

市街地景観条例の制定 全国に先駆けて

- ・美観地区
- ・巨大工作物規制区域
- ・特別保全修景地区（祇園新橋地区、産寧坂地区）

→ (昭50)年 文化財保護法の改正
(伝統的建造物群保存地区制度の創設)

↓
1973(昭48)年 **市街地の大半に高度地区を指定**

(中心部を高さ45m,その他31m,20m,10m)

↓
1988(昭63)年 総合設計制度導入

→1991(平3)年 京都ホテル許可
(高さ60m)

1991(平3)年 京都駅ビル国際コンペ



11

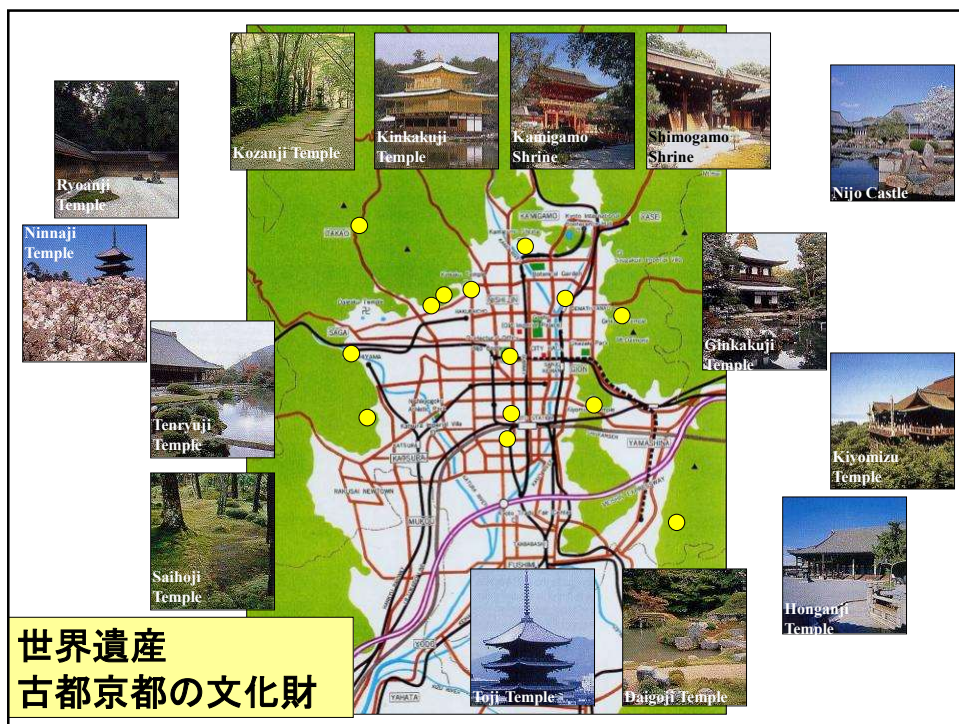
↓
1991・1992(平3・4)年
「土地利用及び景観対策について
のまちづくり審議会」答申
[北部保全・都心再生・南部創造]の
基本コンセプト

→1993(平5)年 新京都市基本
計画(北部保全, 南部創造, 都心
再生)

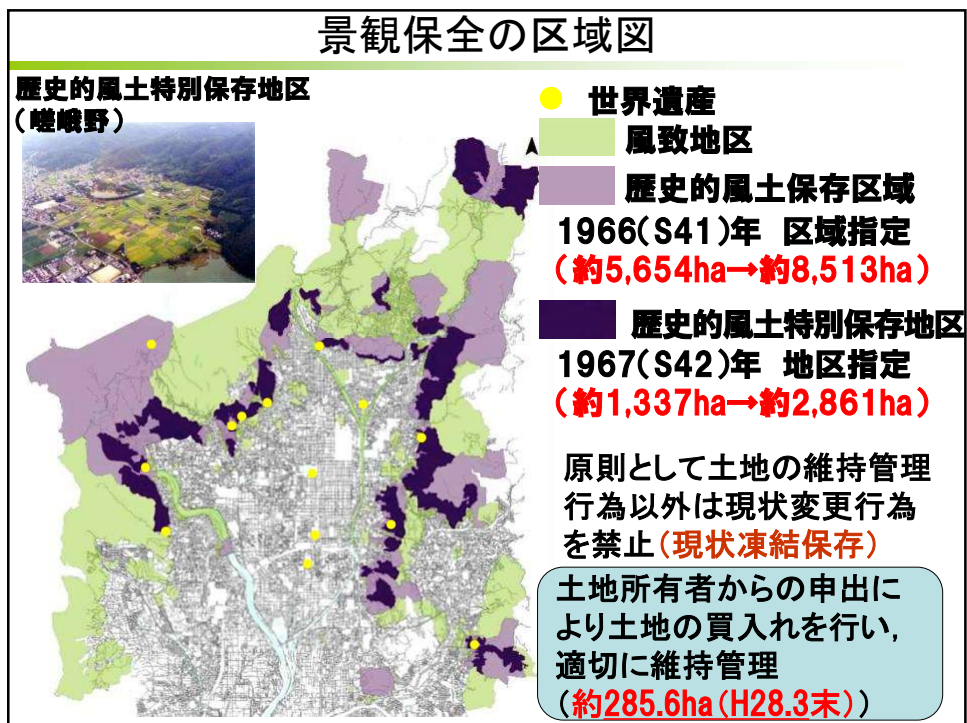


↓
1994(平6)年 **「古都京都の文化財」世界文化遺産登録**
→17箇所 (うち京都市内14箇所)

12



13



14

1995(平7)年 **市街地景観整備条例の制定**

1996(平8)年 **景観規制区域の拡大・屋外広告物対策の強化**

高さ規制の強化

(美観地区 932 ha→1,804ha→1,956ha)

高さ20mの制限区域の一部を15mに引き下げ

2003(平15)年 **職住共存地区の新しい建築ルール**

3点セットルール

・ **高度地区の見直し**

(31m→15m)

・ **美観地区の指定**

・ **特別用途地区の指定**

